

新育第325号の2
令和5年6月6日

保 育 園 長 様
認 定 こ ど も 園 長 様
地 域 型 保 育 事 業 施 設 長 様
認 可 外 保 育 施 設 長 様
病 児 ・ 病 後 児 保 育 事 業 施 設 長 様

新潟市こども未来部
保 育 課 長
(担当 保育指導グループ)

事故集計報告（令和4年度分）について

日ごろより、園児の健康及び安全について十分ご配慮いただき感謝申し上げます。

園におけるケガや事故の状況を把握するため、園児の事故発生状況をご報告いただいておりますが、この度、令和4年度下半期（R4.10月～R5.3月）に提出いただいた「災害報告書（市立）」「事故報告書（私立）」を集計し、年間の事故件数集計結果を別紙のとおりまとめました。年間の事故の傾向についてご確認いただき、今後の参考にさせていただきますようお願いいたします。

◆問い合わせ先◆

こども未来部保育課
保育指導グループ

TEL 025-226-1215

【令和4年度 新潟市事故報告件数】

保育課へ届いた年間事故報告件数

1,535 件

市立保育施設(84/84 園) 604 件
 私立保育園(47/58 園) 282 件
 私立認定こども園(88/118 園) 632 件
 地域型保育事業施設(9/26 園) 17 件
 ＊(事故報告提出施設数/全施設数)

重大事故等件数

158 件

(全報告件数の 10.1%)

骨折 78 件

〈内訳〉 下肢：28 上肢：45
 鎖骨：4 歯根破折：1

縫合 64 件

〈内訳〉 頭：14 額：11 顎：14
 目・目の周り：8 耳：1
 歯・口：13 腹部：1
 上肢：1 下肢：1

歯・口腔内 6 件

その他 10 件

〈内訳〉 打撲：1 犬咬症：1
 脳震盪等：4 誤飲：1
 靭帯断裂・損傷：3

R4 国報告した事故件数

11 件

<公私別>

市立 3 件
 私立 8 件

<男女別>

男 6 件
 女 5 件

<施設別>

保育園 3 件
 認定こども園 8 件

<内容別>

骨折 8 件
 歯 3 件

<年齢別>

3歳 3 件
 5歳 5 件
 6歳 3 件

<ハザードとは・・・>

こどもが予測管理できない、遊びが持っている冒険や挑戦といった遊びの価値とは無関係で、重大な事故につながる、受容できない危険性を、「ハザード」といいます。日々の安全点検や、子どもたちへの安全教育、保護者への啓発等で、ハザードを除去することが大切です。

ハザードの例

国土交通省「都市公園における遊具の安全確保に関する指針」より引用

◆物のハザード

- 道具の腐食、摩耗、劣化、ネジなどのゆるみの放置。
- はさまりやすい隙間、引っかかりやすい突起、つまずきやすい遊具の段差や塗装面の凹凸な遊具そのものの危険。
- 子どもの流れがぶつかるような遊具の配置。
- 遊具から落下するかもしれない所にコンクリートの基礎が露出している。

◆人のハザード

- 遊びながらふざけて押す、突き飛ばす、動く遊具に近づくこと。
- 管理者の指示する内容に反する危険な行動をとる、例えば「使用禁止」の遊具で遊ぶこと。
- からまりやすいヒモのついた衣服やマフラー、カバン、水筒などを身に付けたまま遊ぶこと。
- 対象年齢にあわない遊具で遊ぶこと。
- ひとり乗りの遊具にたくさんの子どもが乗ること。

【国報告対象重大事故発生状況(R4.4月～R5.3月)】

令和4年度、国への報告対象となった事故は以下の通りです。

<国への報告対象となる重大事故とは>

- ・死亡事故
- ・治療に要する期間が30日以上を負傷や疾病を伴う重篤な事故等

月	満年齢 性別	場所	発生状況
	傷病名	時間	
4月	5歳 男児 外傷性不完全脱臼	保育室 9:30 頃	高く積んだ積木が崩れたところに勢いよく倒れ込み、階段状積み木に歯茎をぶつけた(ワイヤー固定30日以上)
5月	5歳 女児 右尺骨近位部骨折	園庭 8:55	鉄棒で前回りをしようとしたところに他児が近づいてきたため 駄目だよと伝えようとした際、手が滑り落下した(手術あり)
5月	3歳 男児 右上腕部骨折	遊戯室 11:20 頃	60 cm程度の高さの窓枠から飛び降り、着地失敗
8月	3歳 男児 右肘顆上骨折	遊戯室 10:10 頃	アスレチックあそびの最中、ソフト積み木1段の上から飛び降りたとき、肘に体重がかかった状態で転倒(手術あり)
9月	6歳 女児 右環指基節骨骨単線損傷	遊戯室 10:30 頃	3チームに分かれサーキットあそびを行っているとき、他児の足に引っ掛かり転倒
10月	5歳 女児 右脛骨骨幹部骨折	園庭 12:40 頃	雲梯にぶら下がった際、手を滑らせ落下 下に敷いてある人工芝に左ひざを強く打ちつけた
10月	3歳 女児 左橈骨遠位端骨折	園庭 10:30	太鼓橋の5本目と6本目の間から体を通し、棒につかまって降りようとしたときにバランスを崩して着地 捻挫と診断されたが、1週間後の再受診で骨折がわかった
11月	6歳 男児 右橈骨遠位端骨折	園庭 11:40 頃	雲梯をしている途中手を滑らせ落下 両足と右手を地面についた際、体重がかかり右手首負傷
11月	5歳 男児 左上AB 外傷性不完全脱臼	園庭 15:50	他児とブランコの柵内に走り込み、下に敷いてあるマットに躓いて転倒した際、ブランコの支柱に口元をぶつけた ワイヤー固定期間が30日を超えた
1月	6歳 女児 右足首剥離骨折	遊戯室 15:55	サーキットあそびの中で、ソフト積み木(I字ブロック)を繋げて作った橋を両足ジャンプで越えようとした際、ブロックに足が引っ掛かり転倒
2月	5歳 男児 左右上AB 歯根破折 外傷性垂脱臼	遊戯室 9:45	サーキットあそびで転んだ際、手が出ず口を床にぶつけた 歯の動揺があり両脇の歯をワイヤーで固定 固定期間が30日を超えた

「歯」に関するケガ3件は、すべて、ワイヤー固定が30日以上となるため国報告対象となったものです。

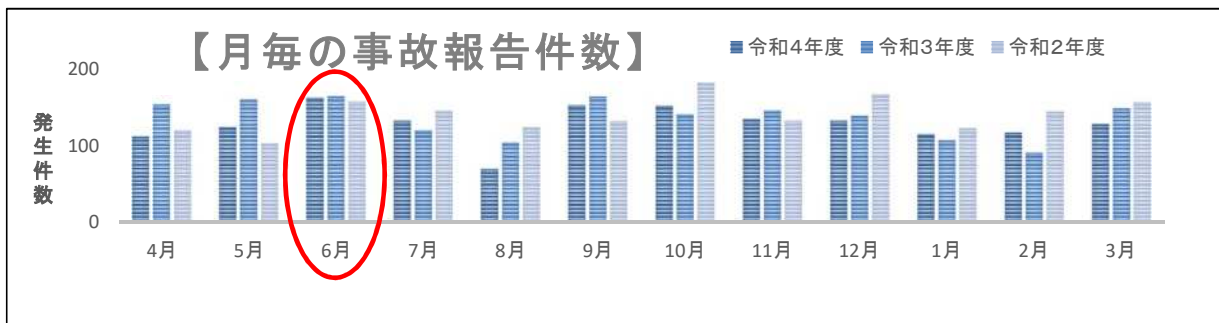
「骨折」8件中2件は、手術を伴うもの、それ以外は、ギプス装着期間が30日を超えたものです。

【事故報告件数(R4.4月～R5.3月)】

* 事故報告件数は、市立保育施設、私立保育園、私立認定こども園、地域型保育事業施設の合計

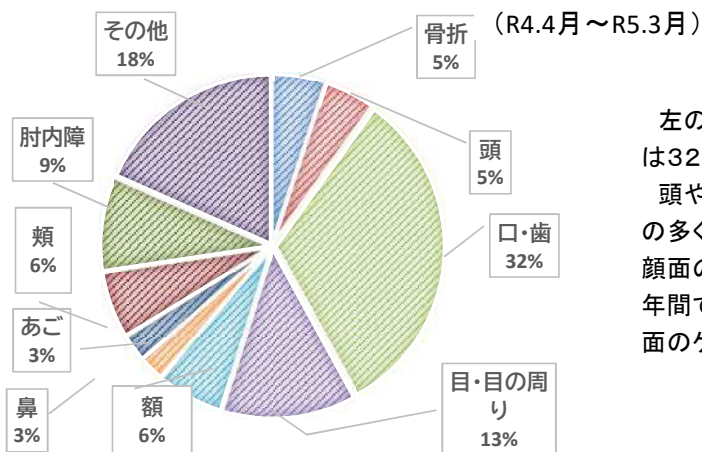
令和4年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
報告件数(合計)*		112	124	163	133	70	153	152	135	133	115	117	128	1535
部位	骨折	4	8	2	6	5	13	10	9	7	3	2	9	78
	頭	7	9	11	8	4	8	4	5	3	3	7	5	74
	口・歯	35	33	50	50	22	39	45	42	45	48	43	41	493
	目・目の周り	10	10	24	13	7	26	23	26	13	12	16	17	197
	額	4	10	11	5	3	15	15	1	15	7	5	7	98
	鼻	5	2	2	1	2	3	7	7	3	1	2	2	37
	あご	4	3	4	4	4	3	2	3	3	6	2	2	40
	頬	12	8	14	5	6	5	7	8	7	11	6	9	98
	肘内障	11	16	16	15	6	11	12	17	10	8	6	10	138
	その他	20	25	29	26	11	30	27	17	27	16	28	26	282
うち県・国への報告		1	2	0	0	1	1	2	2	0	1	1	0	11
令和3年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
報告件数(合計)*		154	160	165	120	104	164	141	146	139	107	91	149	1640
部位	骨折	2	9	6	6	5	9	8	5	4	0	2	10	66
	頭	10	9	8	10	7	8	8	8	16	5	2	7	98
	口・歯	61	53	38	42	33	36	45	58	48	45	27	51	537
	目・目の周り	21	10	20	17	11	21	15	18	16	17	14	24	204
	額	5	11	21	6	3	8	11	7	7	11	3	9	102
	鼻	3	9	7	3	2	4	3	4	5	1	5	6	52
	あご	4	3	5	5	3	4	5	3	2	4	7	1	46
	頬	12	16	15	3	5	19	10	12	7	9	10	11	129
	肘内障	11	11	15	12	11	18	12	11	14	9	10	7	141
	その他	25	29	30	16	24	37	24	20	20	6	11	23	265
うち県・国への報告		0	1	0	0	1	2	1	1	0	0	1	1	8

令和4年度の年間事故報告件数は、1,535件でした。前年度から105件減少しています。8月は、例年減少傾向にありますが、令和4年8月は、新型コロナウイルスの感染が急激に教育・保育施設等に広がり、欠席する園児が増えたことも減少の一因と思われます。どの月も「歯や口、口の周り」のケガが突出していることがわかります。



上のグラフは、令和2年から4年までの月ごとの事故報告件数を比較したものです。その年度ごとに若干の相違はありますが、春や秋に事故が増加し、夏場にやや減少する傾向にあります。6月は、どの年度も多く発生していることがわかります。園生活にも慣れた、活動も活発になるこれからの時期、日常の安全点検やヒヤリハットの分析等、これまで以上に事故予防に気を付けていくことが望ましいでしょう。

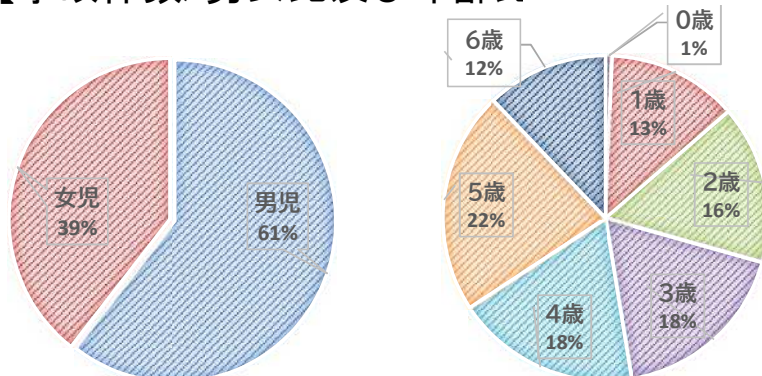
【部位・種類別事故件数の割合】



左のグラフで示された通り、歯や口、口の周りは32%で一番多くなっています。

頭や顔面のケガを合わせると68%となり、ケガの多くが首から上ということがわかります。また、顔面のケガは、縫合を伴う処置をすることも多く、年間で縫合を伴うケガ64件中、61件が、頭・顔面のケガでした。(別紙1 参照)

【事故件数/男女比及び年齢比 (R4.4月～R5.3月)】



年齢	男児	女児	計	年齢比
0歳	7	3	10	0.7%
1歳	120	79	199	13.0%
2歳	143	99	242	15.7%
3歳	176	101	277	18.1%
4歳	173	108	281	18.3%
5歳	205	135	340	22.2%
6歳	105	81	186	12.1%
計	929	606	1535	

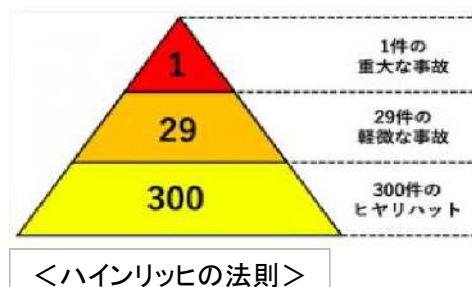
男児60.5% 女児39.5%

上の円グラフは、年間事故報告件数の「男女比」「年齢比」をあらわしたものです。

男女比については、男児60.5%、女児39.5%でした。独立行政法人日本スポーツ振興センターの全国的な集計でも令和4年度の男女比は男児60.3%、女児39.7%となっており、6:4という割合は変わらないようです。日頃から「男の子の事故が多い」と意識しながら、子どもたちの遊ぶ様子を見守るものひとつの取り組みになるのではないのでしょうか。

【施設別事故報告件数】 (R4.4月～R5.3月)

	年間報告事故件数	施設数	事故報告提出施設数	年間報告0件の施設数
市立保育施設	604	84	84	0
私立保育園	282	58	47	11
認定こども園	632	118	88	30
地域型	17	26	9	17



上の表は、施設別に分類した事故報告件数です。**年間1回も事故報告のない保育施設**もあります。まったく事故がなかったのであれば大変うれしいことですが、**報告を怠っているのであれば、改善しなければなりません**。数年続けて事故報告0件となっている保育施設においては、これに該当していないか確認いただくようお願いします。監査で事故報告の確認を行った際、対象となる事故があるのに報告されていないケースがあり、事故報告の提出について口頭指導をした事例もあります。

事故報告書をたくさん提出した方がよい、悪いということではなく、きちんと事実を把握して、類似事故が発生しないように再発防止策を検討し、事故予防に努める姿勢が大切です。大きな事故が発生する前には、29件の軽微な事故があり300件のヒヤリハットがあるというハインリッヒの法則があります。日頃からヒヤリハットに気づく姿勢を持ち、受診を伴う事故が発生した場合は、再発防止策を検討し事故報告書を提出してください。